

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	191500040		
法人名	松前さくら苑株式会社		
事業所名	グループホーム松前さくら苑 ユニット1		
所在地	北海道松前郡松前町字大沢652-13		
自己評価作成日	令和8年2月27日	評価結果市町村受理日	令和8年3月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail.022.kani=true&JigyosyoCd=0191500040-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和8年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は松前町の国道228号線から少し離れた自然豊かな場所にあり、野鳥や自然木に囲まれた静かな場所にあります。松前町は海産物も豊富で道南唯一の城下町であり250種1万本の桜の花が咲く「さくらの里」「北の小京都」とも称されます。施設までの沿道や周囲にも桜の木があり地元住民、施設入居者も和みの桜風景を眺められます。また隣接している松前温泉休養センターは歴史のある名湯としての温泉が楽しめます。施設では松前公園へのお花見やドライブ、町内のお祭りなどに参加していましたが新型コロナの影響で外出に制限がある状況ですが施設で出来るイベントを企画したり(苑庭前の菜園)旬の食材を使った料理を提供する事で入居者様には楽しく、生きがいのある生活を送れるようお手伝いしながら『自然の中でゆったりと楽しく自由にありのまま共に暮らす』を実行しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

松前町は北海道でも有数な桜の名所で、多種類の桜が4月下旬から6月まで次々に咲き誇り、長い期間花を楽しむことができる。同時に梅や椿、すいせん、福寿草なども咲き、百花繚乱の華やかな季節を迎える。「グループホーム松前さくら苑」は、国道から徒歩15分ほど山間に入った場所にあり、桜や雑木林に囲まれ、野鳥のさえずりや小川のせせらぎが聞こえる自然豊かな環境に静かに佇んでいる。開設から20年を迎える2ユニットの事業所は、玄関を入ると事務所を中心に左右にユニットが分かれるコンパクトな造りで、利用者と職員が自由に行き来している。職員はノーマライゼーションの精神に基づき、一人ひとりが思い描く人生の継続を大切に、個人の意志と人格を尊重した「その人らしく地域の中で快適に暮らす」ことを支援している。さらに質の高いケアサービスを目指し、施設長が牽引役となって介護に限らず多様な学びの機会を確保し、職員は自己研鑽を積み重ねて実践に活かしている。利用者の健康状態や心身の状況を適切に把握し、本人の持つ力を引き出し、過剰な介護はせずに必要な時に的確な支援ができるよう全職員で心掛けている。実際に、要介護4で入居した利用者8か月ほどで回復し、自宅に戻った事例もある。利用者と職員は「自然の中でゆったりと」「楽しく自由に」「ありのまま共に暮らす」を心に深く刻み、毎日穏やかに笑顔で暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、事務室、ホールに掲示している。理念の他に職員の心得5か条を掲示しており、周知してもらい、理念を管理者と職員は常に共有し合い、ケアの実践に活かしている。	理念は玄関や事業所内の目につく場所に掲示し、職員や家族、来訪者と共有して利用者の暮らしを支えている。管理者は年に2回ほど機会を設け、理念に込めた思いを伝え日々のケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事の参加したり婦人会や友人の来訪もあり、楽しく交流している。現在は新型コロナの影響で来訪を制限させていただいているが、畑の野菜、魚、ウエスになる古着などを頂いたりして、日常的に交流している。	町内会に入会しており地域のゴミ拾いには職員が参加している。昨年の津波警報時には町内会長がいち早く安否確認に駆けつけ、地域の婦人会や知人の方々からウエスの寄贈を受けるなど、地域との関係は良好である。クリスマスや敬老会にはボランティアが訪れ、歌や舞踊を披露している。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の中学生の研修の受け入れ、小学生の訪問活動、訪問ボランティアを受け入れ、認知症の方々と接し認知症の理解や支援方法を地域の人々に向けて活かしている。(本年度は新型コロナ感染症予防のため、中止している)		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催をし、家族、町内会長、町内会役員、町内消防団員、中学校校長、役場の担当者の参加があり、意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	今年度は5回、役場保健福祉係、町内会長、中学校校長、婦人会、消防団員など多様な関係者が出席して開催している。施設の現状や活動状況の報告、意見や地域の情報(熊の出没)の交換を行い、サービス向上につなげている。さらに会議の活発化に向けた改善策を模索している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、通達事項はもちろん、他に必要が生じた場合などに連絡を取り合い、協力関係を築くように取り組んでいる。	毎月のケア会議に出席して、地域包括支援センター、役場、病院、他のグループホーム職員と情報交換をしている。認知症カフェにスタッフとして参加し、「認知症を正しく理解するため」の講話を自ら作成した資料を基に行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族に身体拘束禁止に伴う事業所の方針を説明し同意を得ている。身体拘束廃止に向けての適正化医院を年4回以上行っていたが、昨年末から毎月オンライン法定研修を実施しており職員全員で共有している質の高い研修と何度も見返せるのがメリットである。また、居室には鍵は設置していない。防犯の為、夜8時から翌朝6時までは玄関の施錠をしている。	身体拘束廃止に向けた研修を毎月オンラインで実施し、記録を残している。人感センサーやセンサーマット(夜間のみ)を使用する際は家族の同意を得て行い、介護計画にも反映して見守っている。定期的にケアの工夫や改善策について話し合っている。	

グループホーム松前さくら苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年末から毎月オンライン法定研修を実施しており職員全員で共有している質の高い研修と何度も見返せるのがメリットである。また、虐待が起こらないように注意し職員のストレスを軽減できるよう話し合いの場を設けるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護に関する制度を学ぶ機会は、まだ設けてはいないが、必要があれば活用できるように、学ぶ機会を活用したい。(研修がある時は参加する)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分説明し、理解・納得をしたうえで、署名捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者と職員は、家族が面会時や電話にて意見、要望を聞いている。日頃から気楽に話せるような雰囲気づくりをし日頃から会話の中からくみ取り、家族から出された意見や要望はミーティング時に話し合いをしている。また、タブレット端末にて普段の様子などを記録して家族のスマホから閲覧することができる。	四季折々に家族に事業所便り送付し、日頃の生活の様子をスマートフォンで撮影した映像で報告している。家族からも「見てます」と報告を受けるなど、コミュニケーションを密に図っている。意見や要望を表出しやすいように工夫し、家族の意見を取り入れた運営に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員とコミュニケーションをとり、職員から出された意見やアイディアは職員会議で検討している。買い物希望や意見、要望を聞く機会を設け運営に反映している。	施設長は日常的に職員の状態を把握し、意見やアイデアを自由に出せる環境を整えている。職員の話をじっくり聴き、内容を適切に判断して必要に応じて指導することもあり、風通しの良い働きやすい職場作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き、可能な限り職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り、町外の研修を受ける機会を確保し、参加できるように努めている。新型コロナウイルス感染症の拡大防止の為、外部の研修はオンラインでの研修などを取り入れたり、施設内部研修を行っている。本年度は数名の職員が札幌と函館で行われた研修に参加された。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内で開催される認知症カフェの参加をや、病院で行われるケア会議で交流や意見交換を行うことでサービスの質を向上させることに役立っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用を開始する時点で、本人の言動や行動に注意し、本人の不安や要望をくみ取り、安心して生活できるような信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みがあった時点から、気軽に話すことが出来るような雰囲気づくりをし、家族が困っていることや、不安な事、要望などを伺い、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用を開始する段階で、情報を共有し、本人と家族が必要としていることを見極め、利用者の支援の在り方を考えながら、他のサービス利用者も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならないように積極的に会話をするようにしている。暮らしを共にする者同士が、楽しく生活出来るように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を家族と共有して、家族と共に利用者を支えていけるような関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や家族の面会や、訪問者との交流をし、人との関わりを持って生活出来るようにしています。又、町内の行事参加をした際、地元民と交流されたりしています。法事、お盆、お正月など家族対応で外出や外泊をしている。(新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、外出や面会を中止する場合もある)	家族がおやつを持参して面会に来たり、盆や彼岸、連休には家族と一緒に墓参りをしたり、外出や長期の外泊をして「楽しかった」と帰ってくることが多い。松前温泉を訪れた妻がついでに夫に面会することもあり、正月には事業所に宿泊して夫と一緒に過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者が孤立しないように、利用者同士の関係を把握し、利用者同士が支え合い、楽しく生活出来るような支援に努めている。地域性もあり知人の入居者がおり、馴染み深い関係がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、サービス利用が終了しても、本人、家族の相談や支援に努めている。(家族より役場への書類申請の事や施設、入院中の相談や生活保護の件、など)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の希望で、飲み物やお菓子、買い物代行や買い物支援、塗り絵や毛糸、花の苗などを購入し趣味を行えるようにし、本人の思いを叶えられるように支援し、困難な場合は家族から情報を聞きながら支援に努めている。	日々の会話や介護計画の更新時に意向を確認している。突然の希望にも対応しており、食べ物のリクエストや草むしりなどにも応じている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族、知人からの情報、入所前の担当ケアマネからの情報交換を行い、生活歴を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子はサービス記録などにて、職員が心身状況の現状が把握できるように努め、共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の要望などを会議で話し、介護計画を作成している。カンファレンス、モニタリングを実効性を高める現状に合った介護計画になるように取り組んでいる。	職員は毎月モニタリングを行い個別会議で内容を検討して記録に残している。計画担当者は6か月を目途に介護計画を作成しているが、病状や状態が変化した時にはその都度話し合い、現状に即した介護計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はタブレット端末を使って個別に、記録を打ち込み、職員間で日々情報交換・共有して介護計画作成に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物支援・受診介助、外出の送迎など、本人や家族の要望に柔軟に対応し、本人や家族に満足して頂けるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共機関を始め、町内会、婦人会やボランティアの方などにより、安全で豊かな生活が出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人と家族の意向確認をし病院受診を支援している。入居者は月1回町立松前病院の訪問診療による健康管理を受けている。体調に変化があり受診が必要な時には職員対応で受診介助し、結果を家族に報告している。	利用者全員が松前町立病院をかかりつけ医としており、医師は日頃の健康状態をよく把握しているため、入院時の受け入れもスムーズに行われている。また、心配な時には24時間オンコールで対応でき、いつでも適切な医療を受けられる体制を整えている。	

グループホーム松前さくら苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	昨年度から看護師資格を持つ施設長が赴任され、職員同士で対応できない場合は様々な助言を貰っている。また、協力医療機関の看護師から、医療面の相談、助言をもらい、適切な受診や利用者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者とは訪問診療や体調変化時に病院側へ連絡し連携を図っている。また、入院時は情報共有書を施設から提供し情報共有している。退院前や入院中の病状について医師よりインフォームドコンセントをし病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としての重度化や看取りに対する指針を明確にした同意書を作成しており、入所時に方針と対応について説明している。医師の判断により医療行為が必要になった場合は本人、家族の意向を随時確認し連携を取りながら取り組んでいる。	契約時に、重度化対応や看取り介護について、本人や家族の希望を基に最善の方法を家族・医師・事業所で話し合っ決めてることを主旨として説明し、同意を得ている。今後は看取りを行うことも検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故に備えたマニュアルを備えて対応できるようにしている。救急救命、AEDの講習を受けている職員もいるが、応急手当や初期段階の定期的訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、地域住民の協力、意見をもらっている。備蓄は定期的に確認し常に買い足している。町内全域の有線放送があり災害情報なども迅速に入っており、業務継続計画(たBCP)も職員間で共有、昨年からオンラインによる法定研修実施している。	運営推進会議で出席者に協力を呼びかけ、町内会長の参加を得て、年2回の避難訓練を実施し記録を残している。食料や水は4日分ほど備蓄し、停電に備えて発電機も用意している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい尊厳を大切に考え援助が必要な時も言葉かけに注意しさりげなくケアをしている。浴室には内側にカーテンを備え付けたり、プライバシーを損ねないように取り組んでいる。	ポータブルトイレを使用する時や着替えなど、羞恥心に配慮が必要な介助の際は必ず戸を閉めて行っている。居室から離れる時も戸を閉めている。職員はケアの基本は礼節であると理解しており、入室する時には必ず声をかけ、許可を得てから入っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わかりやすい言葉で簡潔に説明し、利用者の思いや希望を感じ取り、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴など、その日をどう過ごすかは本人の希望に合わせて支援している。		

グループホーム松前さくら苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を伺い、行事がある時や個人の誕生日の日、外出時は装えるようにしている。また、白髪染めや理髪は出来る職員が対応しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外食を楽しんだり、誕生日には希望でちらし寿司やソーメンなど本人の希望を取っている。現在は衛生面と、効率化のため湯銭の業務用食材を使用しているが、その中にも行事にちなんだ献立を取り入れている。	週間献立は作成しているが、利用者が希望する馴染みの料理(三平汁やジャガイモの塩煮、いも団子汁など)や旬の食材を臨機応変に取り入れ、食べたいと思える食事を提供している。土曜・日曜はカップ麺やいなり寿司も人気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合った食事量やバランスを考えて提供している。食事量や水分量は1人1人の生活シート(タブレット端末)に記録し、職員で情報共有している。野菜不足になりがちなので、週1回、青汁を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、見守りや介助により口腔ケアを行っている。介助時、モアブラシを使い口腔内のマッサージをしたり、状況を把握し、歯科訪問診療も行っている。毎食前に口腔体操を取り入れている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所者の排泄パターンを把握し、仕草、表情、目の動きからさりげなくトイレ誘導している。家族の意向により、夜間のみオムツ使用やポータブルトイレの使用もあり入所者1人1人に合わせた支援をしている。	精神的・身体的なリスクを考慮し、極力おむつを使用しないケアに努めている。やむを得ず使用する場合は、体格や排泄量などを踏まえてパッドがずれにくいものを選び、本人のストレス軽減に配慮している。その結果、現在はほとんどの利用者が自立している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録により排便状況を把握している。便秘については、毎日の体操、散歩を行ったり、水分量の確認、便秘に良い物を提供したり、訪問診療により医師と相談して、個々に合った予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を目安に入浴を行っている。入浴剤も変えることで色や香りを楽しんでリフレッシュして頂きます。早く入りたい人やその日の状況で、入浴者の順番は変更します。入浴できない人は翌日入浴出来るようにしている。	週2回の入浴日のうち、1回は「長風呂の日」と決めて、午後からは湯を入れ替えて15時までの間ゆっくり入浴できるよう工夫している。利用者は入浴の日を心待ちにしており、入浴後のさっぱり感を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人に性格、習慣や体調に応じて休憩して頂いている。就寝時間まで、ホールでテレビ視聴したり、趣味活動や団欒をし、ゆったり過ごして頂きます。また、声掛けをし休息や仮眠をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は施設管理をし、内服薬の内容は職員が周知しているのと、処方情報で確認できるようにしている。服薬に変更があった場合は、その都度職員と情報共有している。服薬記録表があり、服薬できているか確認できるようにしている。		

グループホーム松前さくら苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗拭き、洗濯たたみ、野菜の皮むき、編み物、塗り絵など役割として出来ること、得意として出来る事など、1人1人が生活の中で張りを持ち楽しく、気分転換が出来るような支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事でお花見や紅葉など、ドライブ企画をし外出支援を行っています。また、近隣の散歩をし、温泉休養センターの売店で買い物をしたり、散歩時に自室に飾りたい花を取ったり外気に触れるように支援しています。(新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、外出を制限していただく場合もある)	日常的に近所を散歩することを日課とし、近所の方と挨拶を交わしている。桜祭りに出かけてソフトクリームを食べたり、屋台で買い物をして楽しんでいる。また、外出や外食など本人が望むことは臨機応変に対応し、個別支援の充実に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方は、小遣い程度を自分で管理していただき、本人や家族の希望により、預り金から自由に使う事ができるようにしている。管理不可能な方は、施設で管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話の使用は自由に出来るようにしている。家族から電話がかかってきた場合は、本人とお話しをして頂いている。訪問時、手紙を預かり、ご本人に渡しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の周りは建物がない為、窓の外は明るく草木や桜の木があり、四季折々の景色が眺められます。居間は天井が吹き抜けとなっており、天窓から日差しが入り明るい空間になっている。居間にあるソファや椅子に座ってゆったり過ごしている。利用者の手作りを含め季節感を持って頂ける施設内に飾り付けをし気持ちよく過ごせるようにしています。	オープンキッチンを備えた居間兼食堂は、天窓からほどよく陽が入り、明るい。壁には地元のキルト同好会から寄贈された作品や廃校になった小学校の児童が制作した絵画など、町内の有志から贈られた品々を大切に飾っている。各居室の入口には名前と、避難時に役立つよう歩行状態(歩行器・車椅子など)を記した手作りプレートを掛けている。全室に温度計を備え高齢者に合わせた適切な温度と湿度管理をして快適に暮らせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはテレビがあり、その周りにはソファやテーブルや椅子を配置し、利用者の好きな場所でくつろげるようにしています。1人で過ごしたい時は離れた場所にあるソファや椅子を使ってもらい落ち着く時間をとってもらったり、個々に職員とお話しをしたりする事ができるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたテレビやラジカセ、小物、家族から贈られた物、位牌を置いている方、お花、鉢植えなど好きな物を置き、落ち着けるような居室にしています。また、プライバシーの為、居室には暖簾を掛けており、居心地よく過ごせるように工夫している。	各居室には介護用ベッドとクローゼットが備え付けられており、持ち込む家具は多くないものの、お気に入りの椅子やゲーム機を持参したり、家族の写真飾って、自分の部屋としてゆっくりと寛げる部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、ホールの周りには手すりが設置しており、トイレ、浴室、各居室は引き戸にし、ナースコールを設置している。また、スプリンクラーを設置しており、安心して生活が出来るようになっている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	191500040		
法人名	松前さくら苑株式会社		
事業所名	グループホーム松前さくら苑 ユニット2		
所在地	北海道松前郡松前町字大沢652-13		
自己評価作成日	令和8年2月27日	評価結果市町村受理日	令和8年3月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail.022.kani=true&JigyosyoCd=0191500040-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和8年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は松前町の国道228号線から少し離れた自然豊かな場所にあり、野鳥や自然木に囲まれた静かな場所にあります。松前町は海産物も豊富で道南唯一の城下町であり250種1万本の桜の花が咲く「さくらの里」¹。北の小京都²とも称されます。施設までの沿道や周囲にも桜の木があり地元住民、施設入居者も和みの桜風景を眺められます。また隣接している松前温泉休養センターは歴史のある名湯としての温泉が楽しめます。施設では松前公園へのお花見やドライブ、町内のお祭りなどに参加していましたが新型コロナの影響で外出に制限がある状況ですが施設で出来るイベントを企画したり(苑庭前の菜園)旬の食材を使った料理を提供する事で入居者様には楽しく、生きがいのある生活を送れるようお手伝いしながら『自然の中でゆったりと楽しく自由にありのまま共に暮らす』を実行しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、事務室、ホールに掲示している。理念の他に職員の心得5か条を掲示しており、周知してもらい、理念を管理者と職員は常に共有し合い、ケアの実践に活かしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事の参加したり婦人会や友人の来訪もあり、楽しく交流している。現在は新型コロナの影響で来訪を制限させていただいているが、畑の野菜、魚、ウエスになる古着などを頂いたりして、日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の中学生の研修の受け入れ、小学生の訪問活動、訪問ボランティアを受け入れ、認知症の方々と接し認知症の理解や支援方法を地域の人々に向けて活かしている。(本年度は新型コロナ感染症予防のため、中止している)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催をし、家族、町内会長、町内会役員、町内消防団員、中学校校長、役場の担当者の参加があり、意見交換を行い、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、通達事項はもちろん、他に必要が生じた場合などに連絡を取り合い、協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族に身体拘束禁止に伴う事業所の方針を説明し同意を得ている。身体拘束廃止に向けての適正化医院を年4回以上行っていたが、昨年末から毎月オンライン法定研修を実施しており職員全員で共有している質の高い研修と何度も見返せるのがメリットである。また、居室には鍵は設置していない。防犯の為、夜8時から翌朝6時までは玄関の施錠をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年末から毎月オンライン法定研修を実施しており職員全員で共有している質の高い研修と何度も見返せるのがメリットである。また、虐待が起こらないように注意し職員のストレスを軽減できるよう話し合いの場を設けるようにしている。		

グループホーム松前さくら苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護に関する制度を学ぶ機会は、まだ設けてはいないが、必要があれば活用できるように、学ぶ機会を活用したい。(研修がある時は参加する)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分説明し、理解・納得をしたうえで、署名捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者と職員は、家族が面会時や電話にて意見、要望を聞いている。日頃から気楽に話せるような雰囲気づくりをし日頃から会話の中からくみ取り、家族から出された意見や要望はミーティング時に話し合いをしている。また、タブレット端末にて普段の様子などを記録して家族のスマホから閲覧することができる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員とコミュニケーションをとり、職員から出された意見やアイディアは職員会議で検討している。買い物希望や意見、要望を聞く機会を設け運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き、可能な限り職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り、町外の研修を受ける機会を確保し、参加できるように努めている。新型コロナウイルス感染症の拡大防止の為、外部の研修はオンラインでの研修などを取り入れたり、施設内部研修を行っている。本年度は数名の職員が札幌と函館で行われた研修に参加された。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内で開催される認知症カフェの参加をや、病院で行われるケア会議で交流や意見交換を行うことでサービスの質を向上させることに役立っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用を開始する時点で、本人の言動や行動に注意し、本人の不安や要望をくみ取り、安心して生活できるような信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みがあった時点から、気軽に話すことが出来るような雰囲気づくりをし、家族が困っていることや、不安な事、要望などを伺い、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用を開始する段階で、情報を共有し、本人と家族が必要としていることを見極め、利用者の支援の在り方を考えながら、他のサービス利用者も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならないように積極的に会話をするようにしている。暮らしを共にする者同士が、楽しく生活出来るように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を家族と共有して、家族と共に利用者を支えていけるような関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や家族の面会や、訪問者との交流をし、人との関わりを持って生活出来るようにしています。又、町内の行事参加をした際、地元民と交流されたりしています。法事、お盆、お正月など家族対応で外出や外泊をしている。(新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、外出や面会を中止する場合もある)		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者が孤立しないように、利用者同士の関係を把握し、利用者同士が支え合い、楽しく生活出来るような支援に努めている。地域性もあり知人の入居者がおり、馴染み深い関係がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、サービス利用が終了しても、本人、家族の相談や支援に努めている。(家族より役場への書類申請の事や施設、入院中の相談や生活保護の件、など)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の希望で、飲み物やお菓子、買い物代行や買い物支援、塗り絵や毛糸、花の苗などを購入し趣味を行えるようにし、本人の思いを叶えられるように支援し、困難な場合は家族から情報を聞きながら支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族、知人からの情報、入所前の担当ケアマネからの情報交換を行い、生活歴を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子はサービス記録などにて、職員が心身状況の現状が把握できるように努め、共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の要望などを会議で話し、介護計画を作成している。カンファレンス、モニタリングを実効性を高める現状に合った介護計画になるように取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はタブレット端末を使って個別に、記録を打ち込み、職員間で日々情報交換・共有して介護計画作成に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物支援・受診介助、外出の送迎など、本人や家族の要望に柔軟に対応し、本人や家族に満足して頂けるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共機関を始め、町内会、婦人会やボランティアの方などにより、安全で豊かな生活が出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人と家族の意向確認をし病院受診を支援している。入居者は月1回町立松前病院の訪問診療による健康管理を受けている。体調に変化があり受診が必要な時には職員対応で受診介助し、結果を家族に報告している。		

グループホーム松前さくら苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	昨年度から看護師資格を持つ施設長が赴任され、職員同士で対応できない場合は様々な助言を貰っている。また、協力医療機関の看護師から、医療面の相談、助言をもらい、適切な受診や利用者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者とは訪問診療や体調変化時に病院側へ連絡し連携を図っている。また、入院時は情報共有書を施設から提供し情報共有している。退院前や入院中の病状について医師よりインフォームドコンセントをし病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としての重度化や看取りに対する指針を明確にした同意書を作成しており、入所時に方針と対応について説明している。医師の判断により医療行為が必要になった場合は本人、家族の意向を随時確認し連携を取りながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故に備えたマニュアルを備えて対応できるようにしている。救急救命、AEDの講習を受けている職員もいるが、応急手当や初期段階の定期的訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、地域住民の協力、意見をもらっている。備蓄は定期的に確認し常に買い足している。町内全域の有線放送があり災害情報なども迅速に入っており、業務継続計画(たBCP)も職員間で共有、昨年からオンラインによる法定研修実施している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい尊厳を大切に考え援助が必要な時も言葉かけに注意しさりげなくケアをしている。浴室には内側にカーテンを備え付けたり、プライバシーを損ねないように取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わかりやすい言葉で簡潔に説明し、利用者の思いや希望を感じ取り、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴など、その日をどう過ごすかは本人の希望に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を伺い、行事がある時や個人の誕生日の日、外出時は装えるようにしている。また、白髪染めや理髪は出来る職員が対応しています。		

グループホーム松前さくら苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外食を楽しんだり、誕生日には希望でちらし寿司やソーメンなど本人の希望を取っている。現在は衛生面と、効率化のため湯銭の業務用食材を使用しているが、その中にも行事にちなんだ献立を取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合った食事量やバランスを考えて提供している。食事量や水分量は1人1人の生活シート(タブレット端末)に記録し、職員で情報共有している。野菜不足になりがちなので、週1回、青汁を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、見守りや介助により口腔ケアを行っている。介助時、モアブラシを使い口腔内のマッサージをしたり、状況を把握し、歯科訪問診療も行っている。毎食前に口腔体操を取り入れている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所者の排泄パターンを把握し、仕草、表情、目の動きからさりげなくトイレ誘導している。家族の意向により、夜間のみオムツ使用やポータブルトイレの使用もあり入所者1人1人に合わせた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録により排便状況を把握している。便秘については、毎日の体操、散歩を行ったり、水分量の確認、便秘に良い物を提供したり、訪問診療により医師と相談して、個々に合った予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を目安に入浴を行っている。入浴剤も変えることで色や香りを楽しんでリフレッシュして頂きます。早く入りたい人やその日の状況で、入浴者の順番は変更します。入浴できない人は翌日入浴出来るようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人に性格、習慣や体調に応じて休憩して頂いている。就寝時間まで、ホールでテレビ視聴したり、趣味活動や団欒をし、ゆったり過ごして頂きます。また、声掛けをし休息や仮眠をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は施設管理をし、内服薬の内容は職員が周知しているのと、処方情報で確認できるようにしている。服薬に変更があった場合は、その都度職員と情報共有している。服薬記録表があり、服薬できているか確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗拭き、洗濯たたみ、野菜の皮むき、編み物、塗り絵など役割として出来ること、得意として出来る事など、1人1人が生活の中で張りを持ち楽しく、気分転換が出来るような支援を行っている。		

グループホーム松前さくら苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事でお花見や紅葉など、ドライブ企画をし外出支援を行っています。また、近隣の散歩をし、温泉休養センターの売店で買い物をしたり、散歩時に自室に飾りたい花を取ったり外気に触れるように支援しています。(新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、外出を制限していただく場合もある)		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方は、小遣い程度を自分で管理していただき、本人や家族の希望により、預り金から自由に使う事ができるようにしている。管理不可能な方は、施設で管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話の使用は自由に出来るようにしている。家族から電話がかかってきた場合は、本人とお話しをして頂いている。訪問時、手紙を預かり、ご本人に渡しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の周りは建物がない為、窓の外は明るく草木や桜の木があり、四季折々の景色が眺められます。居間は天井が吹き抜けとなっており、天窗から日差しが入り明るい空間になっている。居間にあるソファや椅子に座ってゆったり過ごしている。利用者の手作りを含め季節感を持って頂ける施設内に飾り付けをし気持ちよく過ごせるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはテレビがあり、その周りにはソファやテーブルや椅子を配置し、利用者の好きな場所でくつろげるようにしています。1人で過ごしたい時は離れた場所にあるソファや椅子を使ってもらい落ち着く時間をとってもらったり、個々に職員とお話しをしたりする事ができるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたテレビやラジカセ、小物、家族から贈られた物、位牌を置いている方、お花、鉢植えなど好きな物を置き、落ち着けるような居室にしています。また、プライバシーの為、居室には暖簾を掛けており、居心地よく過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、ホールの周りには手すりが設置しており、トイレ、浴室、各居室は引き戸にし、ナースコールを設置している。また、スプリンクラーを設置しており、安心して生活が出来るようになっている。		